

会派政務活動調査視察 報告書

政新クラブ・日本共産党・立憲民主党 3 会派合同視察

実施年月日 令和 4 年 7 月 12 日（火）～7 月 14 日（木）

調査目的 第 1 日目 兵庫県宝塚市 宝塚市役所
「エイジフレンドリー宝塚の取り組みについて」
第 2 日目 岐阜県関ヶ原町 関ヶ原町役場および岐阜関ヶ原古戦場記念館
「古戦場を活かしたまちづくりについて」
第 3 日目 名古屋市内 「トヨタ産業技術博物館」見学

主席者 7 月 12 日（火） 大島久幸・加藤美智子・藤田義昭・大貫 毅
7 月 13 日（水）・14 日（木）大島久幸・加藤美智子・藤田義昭・大貫 毅・阿部秀実

報告事項

視察研修第 1 日目

日 時：令和 4 年 7 月 12 日（火）午後 1：00 開始～午後 3：00 終了

視察地：兵庫県宝塚市 宝塚市役所庁舎内会議室

所在地：兵庫県宝塚市東洋町 1－1 宝塚市役所

テーマ：「エイジフレンドリー宝塚の取り組みについて」

① 「エイジフレンドリーシティ宝塚行動指針」の目的・理念

背景は

エイジフレンドリーシティとは、平成 19 年（2007 年）に WHO（世界保健機構）が世界的な高齢化と都市化に対応するために提唱した世界的規模のプロジェクトであり、高齢者にやさしいまちづくりを推進しようとする取り組みであります。

宝塚市は、この考え方に賛同し、平成 27 年（2015 年）にグローバルネットワークのメンバーとなり、平成 29 年（2017 年）にこの行動計画が策定されました。

目的は

市民一人一人が生きがいをもって生き生きと暮らし続けるために、健康寿命を延ばすことや高齢者が支えられるだけではなく、社会の支え手としての役割を担い、それぞれの意欲と能力に応じて活躍できる高齢者の QOL の向上に寄与し、ひいてはすべての市民の QOL の向上を目指すことを目的としています。

（QOL:quality of life の略。物理的な豊かさやサービスの量、個々の身辺自立だけではなく、精神面を含めた生活全体の豊かさと自己実現を含めた概念のこと）

理念は

基本理念は お互いさまがあふれるまち・宝塚（あらゆる世代が、お互いの存在を認め合い、支え合い将来につながる地域社会を創造する）こと。

② 前計画である「エイジフレンドリーシティ行動計画」策定の背景

WHOの提唱しているエイジフレンドリーシティの取り組みは、8分野に分かれており、この8分野をベースに推進体制を整えた。市の総合計画や基本計画等に沿った体制を策定した。

- 1：庁内における部局間の連携体制
- 2：市民や事業者との協働による取組の推進
- 3：市の計画等における進行管理

③ これまでに実施した主な事業

1：お互い様のまちづくり縁卓会議

エイジフレンドリーシティ実践隊を組織し、やりたい人が手を挙げて行う。

当初、懸念していた点があったが、応募人数が予想以上に集まり、にぎやかに元気に取り組んでいる

3つの部会を作りそれぞれが活躍できる場を提供

2：部会の一つ目 居場所づくり部会

この部会では、部会で課題や意見を出し合い、必ず実践するところまで行うことが鉄則としているところが素晴らしいことと思う。

モデル的に自治会館等を利用し、子育て世代向けのイベントを実施した実施したイベント

- しめ縄作り ●親子ツボ押し教室 ●整理収納、子育てセミナー
- リトミック教室 等

それぞれが大変好評で、高齢者スタッフの皆様もとても生き生きされていたとのこと。生きがいにつながっていることが確認された事例。

3：部会の二つ目 健康・生きがい就労部会

この部会では生きがいを持って生きられる実践を行っている。

- 福祉事業所との協働 高齢者のスタッフとしての受け入れの構築
- 高齢者が働きやすい工夫を考え、意見をまとめ伝える
- マスコミで取り上げてもらったことで、さらに参加者が増え、説明会には80名を
超す人が集まった。
- 受け入れる事業所が10事業所と増えた
- アンケートには満足と答えた高齢者は89%、続けたいとした意見は96%
- 高齢者の保育サポーターを実施。さらに他の保育園への展開を目指す
- この事業組織が認められ、令和2年に「第9回健康寿命を延ばそうアワード」において厚生労働省老健局長賞 優良賞自治体部門を受賞された

4：部会の三つ目 広報・情報部会

この部会はエイジフレンドリーという意味がまだ市民にはなじんでいない、理解が深まっていないことを受け、エイジフレンドリーがどういったものかを広報することが目的である

- エイジフレンドリーシティ広報部会のフェイスブックを立ち上げる
- 縁卓会議をオンラインで開催すること
- コロナ禍でもできることの提唱 自宅でできる体操
- 縁フェス2020の開催 コロナ下であっても繋がることを切らさない事業
- フェイスブック、ユーチューブなども使って
- コープの協力で「ここおる」という名の地域の居場所を作った
- NPO 法人「健康・生きがい就労ラボ」を設立し、市と NPO 法人が協働で事業を推進した
- 縁フェスでお互いの活動を発表しあい、さらに情報を共有し、良いものにしてゆく努力をしている

以上は宝塚市企画経営部政策室 企画政策課 が中心となって策定し、エイジフレンドリーシティ宝塚は、健康福祉部 地域福祉課が担っている。第6次宝塚市総合計画をベースに、それぞれの課が協働の意識でまちづくりを考える際に、エイジフレンドリーシティ宝塚の考え方は幅広く多くの市民の健康と元気な街づくりの源となると確信しました。

高齢化社会の現実に立った時、だれもが元気で生き生き過ごし、少しでも社会の役に立つことを思って居るが実際は、どうしてよいかわからないで過ごしてしまう現実がある。しかしながらこのような繋がるとしたフレンドリー的な考え方がさまざまな分野で展開される街は、魅力的であり、活力に満ち溢れたまちづくりが展開されることが想像できた。

鹿沼市は、市民協働のまちづくりを提唱しているが、今ひとつ市民側には理解が及んでいない点があるような気がします。たとえば、行政と市民の話し合う場 は、公にありません。市議会議員が地域と高校生にむけての広報広聴の聞き取りがありますが、本来なら、行政側と市民が話し合う場を設けることの方が、解決が早い場合がある気がします。

この点は非常に大切な点であるので、まちづくりの未来に向けての課題といえるとおもいます。

視察研修第2日目

日 時：令和4年7月13日（水）午後1：00開始～午後3：00終了

視察地：岐阜県 関ヶ原町庁舎・岐阜関ヶ原古戦場記念館

所在地：岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原 894-58 岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原 894-55

テーマ：「古戦場を活かしたまちづくりについて」

①「関ヶ原古戦場グランドデザイン」と②「岐阜関ヶ原古戦場記念館」について

◇はじめに

岐阜県は、関ヶ原町において、2020年10月21日「岐阜関ヶ原古戦場記念館」を開設しました。このチャンスを起爆剤に、関ヶ原町では、平成27年に制定した「関ヶ原古戦場グランドデザイン」に基づき、関ヶ原の戦いの史跡地へ誘う拠点施設プロジェクトを進め、「岐阜関ヶ原古戦場記念館」との連携を図り、「グランドデザイン＝全体構造」の手法による、関ヶ原古戦場という歴史をバックボーンとして活かした、関ヶ原古戦場グランドデザイン関連事業を展開しています。具体的には、魅力発信のためのイベントの開催と、魅力を向上させていく仕組み、受け入れ環境の整備の推進などを展開中です。

①「関ヶ原古戦場グランドデザイン」について

- 観光活性化支援補助金として町内事業者の特産品、ご当地メニュー、土産物の開発、観光誘客など観光活性化繋がる事業に対する対象経費の1/2補助をする事業。
- 関ヶ原古戦場旅行商品開発事業として、関ヶ原町の地域の観光資源を活かした着地型旅行商品の造成や、教育旅行誘致を促進。学習資料の作成や教育委員会へのPR（R3年度実績、94校、6500名）
- 放送予定の大河ドラマ「どうする家康」を契機としたPR・イベントでの観光誘客や、関ヶ原古戦場との連携事業。
- 交流人口の増加と観光まちづくり推進事業、史跡整備事業の展開（大河ドラマ「どうする家康」を契機とした観光誘客と景観保全として桃配山（徳川家康最初陣地）の修景整備などの事業。
体験型プログラム推進事業、レンタサイクルを66台保有して、史跡巡りや、町内観光に活用。
このほかにも数々の事業を展開しています。

視察する中で、人口、約6,600人の自治体とは思えない先進的な事業の展開、やる気漲る各担当の職員の皆さんの丁寧な説明には、関ヶ原町を誇りとして、町をアピールする気概を強く感じました。町役場会議室での「関ヶ原古戦場グランドデザイン事業」の説明後、隣接した関ヶ原古戦場記念館を見学させていただきました。同館内では展示された勢力図・布陣図などの解説図などを通じて関ヶ原合戦の概要を学び、実際に史跡を歩くことで、慶長5年9月15日(西暦1600年10月21日)に行われた関ヶ原の戦いの歴史を学べる仕組みが館内に広がります。

②「岐阜関ヶ原古戦場記念館」について

関ヶ原の戦いにおける「徳川家康最後陣地」に隣接して建てられた同館は、関ヶ原の戦いに至るまでの流れとその規模の大きさを伝える壮大な仕掛けが館内に詰め込まれており、その想像以上の仕組みは、驚きと感動でした。エントランスを抜けると、まず暗い廊下の壁にプロジェクションマッピングによるイメージ映像が映し出され、合戦前の夜のイメージを彷彿します。一つ目の入口を入ると「グランド・ビジョン」として床一面に広がるスクリーンが設置。その映像を見下ろすことで、東軍と西軍の配置や動きなど、リアルに観ることができます。さらに次に進み、縦 4・5m、横 13m の曲面の巨大スクリーンの「シアター」のシートに腰を下ろすと、迫力ある音楽がと共に、風や振動、光と音の演出により再現された関ヶ原の戦いを、まるで、その場で見ているような臨場感での体感でき心を奪われる思いでした。

2 階の展示室では「関ヶ原合戦図屏風」などの実物史料や、精巧な模造品を通して関ヶ原の戦いの発端から終結までを学ぶことができ、栃木県小山市の小山評定史跡が徳川陣営の関ヶ原へ向かう始点だったことも示されており、少し身近に感じられたことも今回の収穫でした。3 階にはセミナールームが設置。

次に、エレベーターで 5 階に上がると関ヶ原古戦場跡地の中心に建てられた同館は、まさに合戦の場を一望に見渡すガラス張りの展望室となっています。

同館は、館長を静岡大学名誉教授である小和田哲男氏が務めています。

戦国時代史研究の第一人者。NHK「歴史秘話ヒストリア」や E テレ「知恵泉」など歴史番組において、分かりやすい解説に定評がある。また、NHK 大河ドラマでも数多くの時代考証を担当。戦国武将に関する著書を多数執筆されています。さらに 1 階の迎え出入口には、今を時めく左官士挟土秀平氏の関ヶ原レリーフが展示され、それぞれの陣営の土を使って、東西陣屋の合戦をイメージされたという秀作が鎮座し、アンバサダー（同館の観光大使）には、女優の竹下景子さん。そしてグランドビジョン映像の解説と、ナレーションには、いま最もチケットが取れない講談師とも言われている、六代目 神田伯山氏が担当されているという、豪華な組み合わせも驚きと感動でありました。

1 階向かい側には、岐阜県産品と戦国・歴史グッズを販売する施設があり、全国の戦国グッズメーカーや大河ドラマ館ショップ運営実績がある有名なメーカーの協力により「ここでしか買えない」岐阜関ヶ原古戦場記念館オリジナルグッズを 200 種以上揃えているということです。その隣には、食を通じて関ヶ原の戦いに触れることをテーマとしたレストランもあり、関ヶ原の戦いに参戦した武将をイメージしたオリジナルメニューをはじめ、地元の方々が日常的に利用していただける一般的なメニューも提供することで、日常的にも利用できる持続可能な運営方法の対策も備えていました。

また、同館北側には関ヶ原町の郷土・歴史を大切にしながら教育的視点・体験的要素を重視した施設として、「関ヶ原町歴史民俗学習館」も併設されています。1 階の「多目的室」は、最大

100 人を収容可能で、教育旅行時などのガイダンスや休憩スペースとして活用できるということです。壁面には「関ヶ原アーカイブス」として、関ヶ原の戦いに関連する書籍を多数所蔵し、誰でも自由に閲覧できます。

2 階は、関ヶ原の戦い以外の関ヶ原町の歴史(壬申の乱、中山道、玉の火薬庫など)を展示する「地域展示室」のほか、地域に残る民具に実際に触れられ 歴史にちなんでワークショップが実施できる「体験展示室」が用意されています。

関ヶ原町の西脇町長は、町の案内パンフレットにおいて、「天下分け目から天下和合へ」戦いは人の命を奪い合う悲惨な行為。関ヶ原で起こった 672 年の 壬申の乱、1600 年の関ヶ原の戦い、二つの戦いは、日本の文化に大きな影響をもたらしたことも事実。古戦場を受け継ぐ者として、歴史的な意義を問う ともに、平和の大切さを次世代に伝えていきたい。としています。関ヶ原町という小さな町のチャレンジは、郷土愛を持って頑張り、やり遂げていくエネルギーを感じることができ、この取り組みを鹿沼市の観光行政や、まちづくりに活かしていきたいと思えます。

視察研修第 3 日目

名古屋市内「トヨタ産業技術博物館」見学

機織り機の発明から紡績機械の発明で綿花からより質の良い木綿糸をつくり、糸そして布地の大量生産へと日本の発展に寄与し、さらに、国産自動車生産へと高い技術力と深い探求心でトヨタの緻密な努力と世界の先端をゆく姿を見学した。紡績機械はまさにからくり人形のごとく、様々な工夫が時代によって更に施され、日々邁進し使いやすいモノにしてゆくといったたゆまない技術革新の努力の足跡を追うことができ、目からうろこの場面が多々ありました。

トヨタは 1 日にしてならず……。日本の誇れる技術の規範であることを確信しました。

3 日間ともに「まちづくり」が共通テーマであったため、非常に参考となった視察研修でありともに聴講研修だけではなく、現地を視察できその都度関係者に質問し回答をいただけたことが有意義でありました。

以上、各参加議員は、熱心に現地視察し、活発に話し合いを行い有意義な視察となりました。

その他については、別添の資料の通りであります。

上記の通り、報告とする。

令和4年7月22日

鹿沼市議会

議長 大島久幸 様

会派名 政新クラブ 代表 加藤美智子

日本共産党 代表 阿部秀実

立憲民主党 代表 大貫 毅

兵庫県宝塚市

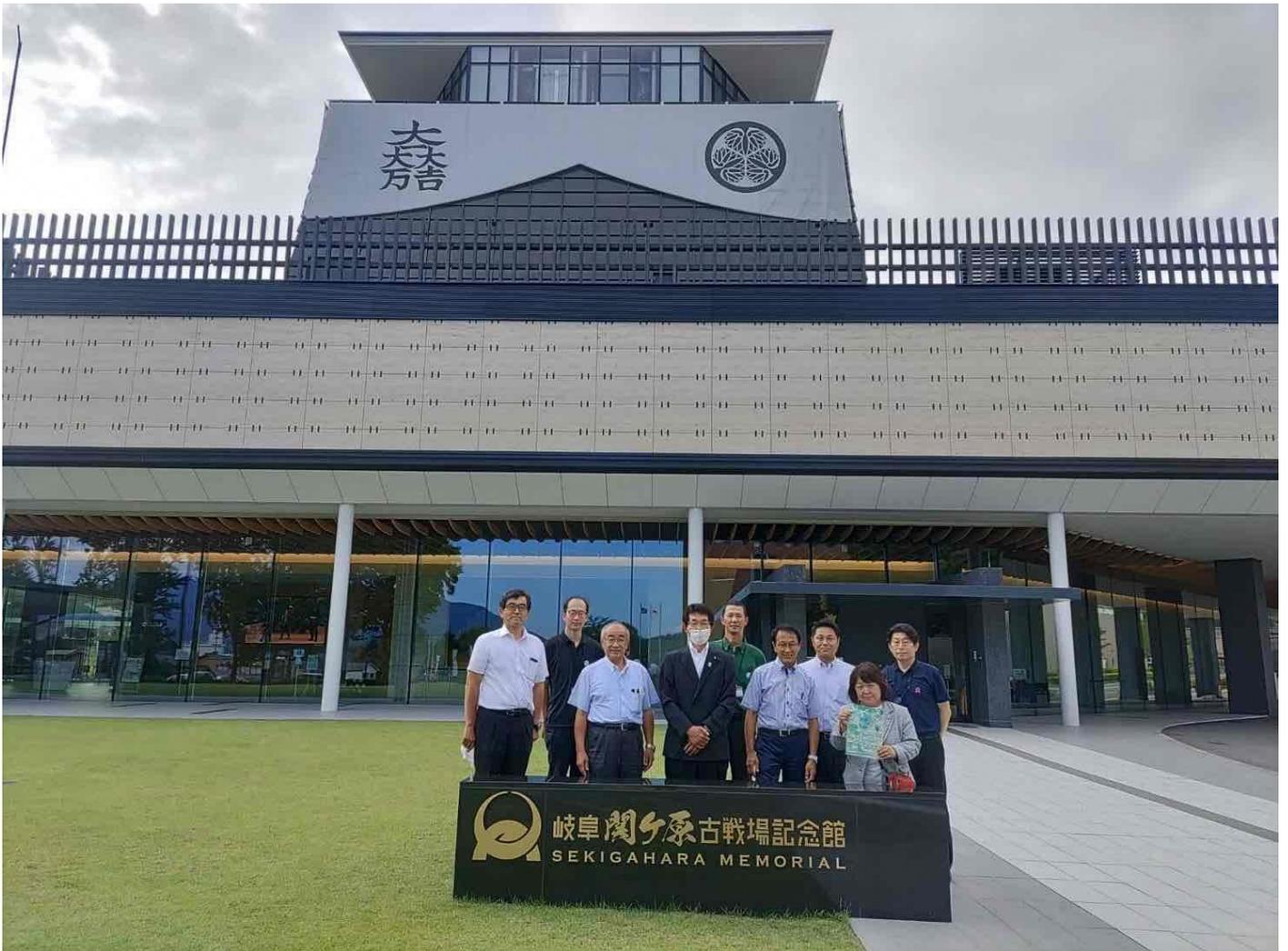


岐阜県関ヶ原町



岐阜関ヶ原古戦場記念館





トヨタ産業技術博物館

